

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真	後藤
山行番号	NO. 1944		
日時	2021年9月15日(水) 晴れ		
山域	越美山地・能郷(のうごう)白山(1617m・日本二百名山)		
コース	起床4:00ー能郷谷林道ゲート発5:50ー林道終点・登山口6:56ーお迎えブナ8:01 ー前山手前8:55ー能郷白山10:06(最終10:45)~11:05ー登山口13:19ーゲート 13:53(途中から自転車使用・最終着15:00)ー西国三十三観音結願寺・華厳寺16: 09ー立花屋(泊)		
累計標高差	上り・下り	ゲート約380m~能郷白山1617m=約1237m	
快適度	5段階=5		
難易度	非常に困難	困難	レやや困難 普通 やや易しい 易しい
能郷白山は、ヘビの山だった			
参加者	後藤、加藤、合谷、星=4名		

14日(火)=このところ天候不順が続き、登山活動は、なかなか進まなかった。しかし、何とか晴天日を探し実行の運びとなった。登山候補は色々あったが、結局、春に計画したが未実施だった能郷白山に決まった。

6時長泉発。順調に進み、東海環状自動車道・関広見ICを降りる。長泉町から約330km。ここから山麓まで約30kmある。天気はハッキリしない。小雨が降っていた。



一般登山道は根尾能郷から能郷谷林道を進む。ただ、集落の分岐に道標はない。翌日分かったが、結局、林道終点の登山口まで何も道標は無かった。こんな山ってあり??

今回の登山計画は、林道歩きが長いので、前山東尾根を上り、温見(ぬくみ)峠に縦走したかった。根尾西谷川の峠に向かう林道を下見した。林道は狭く長かった。しかも峠まで標高差が約1351mあった。

これでは、峠に自転車を置いて車を回収するのは不可能だ。翌日、能郷谷を標高差でたった200m程の下降で難儀した。それと、前山東尾根バリエーションなど夢の夢だった。雪国の山は、ネマガ

リダケが密生し、とても上れるものではなかった。結論は、縦走・東尾根もナシ。それが分かっただけでも下見の価値はあった。下見を済ませ、谷汲（たにぐみ）温泉「満願の湯」に入り、某所でテントを張る。小雨が降っているため屋根付きは有難かった。

ベンチでイッパイやっていると、地元のババさまが散歩に来た。「ケンちゃん」というコリー犬も連れていた。ケンちゃんに持参した「安納芋」を上げたら大いに喜んだ。



夕食は鍋を突いた。今季「初鍋」で美味しかった。雨は依然として、ショボショボ降っていた。明日、本当に止むだろうか？ババさまの話では、「絶対、大丈夫」だったが……。テント外で寝たGYは、蚊に食われたと言っていた。

15日（水）＝4時起床。タベは良く寝た。雨は止み、星が光っていた。良かった。昨夜の鍋の残りで、オヤジでない、レディが作った「オジャ」流動食で食べやすい。2杯食べた。昨夕のババさま、愛犬ケンちゃんがまた来た。今度は車だった。

ババさまは72歳といった。実際より老けて見えた。バツイチでこの地に嫁いたという。ただ、旦那様は数年前に亡くなった。現在は愛犬と二人暮らし。子供はいない。

山奥の生活だが、余り不自由は感じていないようだ。近くにスーパーはない。20分ほどの町まで車を運転して買い出しに行くとのこと。今朝は我々の見送りに来てくれた。「気を付けて……」のエールをいただいた。

能郷林道のゲートから出発。朝の冷気が気持ち良い。私だけ自転車で林道を偵察。ゲートは縄を張ってあるだけなので、林道の状態が良ければ戻って皆を迎えに来るつもり。しかし、道は落石が多く路肩が崩れ危険だった。

自転車で戻って、皆と歩く。自転車は途中にデポ。林道は延々と登山口まで続いていた。地図を見ると、昔は標高1100m付近まで伸びていた。実はこれ、堰堤工事用の道だった。

頂上の上って分かったが、山の南面は兎に角、堰堤が多い。それだけ脆弱なのだろうか。ただ、北面は殆どない。不思議といえば不思議。行政の違いだろうか。

登山口に着いた。林道は約1時間。今回、初めての道標があった。立派な物だった。能郷谷に架かる簡易橋もある。手摺がロープなので、ちょっと怖い。足元も鉄板で滑りやすい。でも、橋が無ければ、谷を渡るのは中々難しい。谷から本格的な上りになる。物凄い急登。約1時間で前述の林道跡に出た。



登山口の橋

登山道は、前山まで標高差約450mの上り。我慢・辛抱の上りだ。途中に「お迎えブナ」標識のブナがあった。天気は良く青空が広がっていた。登山道は、登山口から綺麗に刈り入れがされ歩き易かった。ただ、雑草がないので、日当たりが良くて暖かい。実はそこに「ヘビ」が何匹かいた。黒いヘビだった。種類は不明。ネットでは、

・・・身近に潜む黒い蛇(黒蛇)の秘密に迫ります。日本には「黒い蛇」として認識されているものは3種類います。シマヘビ、ヤマカガシ、マムシです。アウトドア趣味で山野を歩いていると、ときおり真っ黒い蛇に出会うことがあります。黒化型と言って、本来の蛇の体色の変異して(体色変異といいます)、黒色に変化したものです。

日本には「黒い蛇」として認識されているものは3種類います。シマヘビ、ヤマカガシ、マムシです。なかでも山野で遭遇する機会が多いのがシマヘビでしょう。シマヘビの黒化型はカラスヘビと呼ばれ、日本各地で目撃されます。目の前に黒い蛇が突然現れるとびっくりしますが、大概はヘビの方もびっくりして、急いでその場を立ち去ってくれます。ここでは、そんな黒い蛇たちを紹介します

シマヘビはナミヘビ科ナメラ属に分類される無毒の蛇で、日本国内ではアオダイショウやヤマカガシとともによく見られるヘビです。全長80-150cm。通常は淡黄色の体色に、4本の黒い縦縞模様が入っています。シマヘビは生息地域により、また個体によって体色変異が見られ、縦縞がまったくない個体もあります。黒化個体のカラスヘビは日本各地で目撃され、いわば日本の「黒い蛇=黒蛇」

の代表格のような存在です。川沿いの道端でとぐろを巻くカラスヘビ。シマヘビはトカゲ・ヘビ等の爬虫類や、カエル等の両生類を好んで捕食することから、川辺や農耕地、山の周縁部などで多く見られます。

私たちは黒化個体と普通個体との色の違いを勉強させてもらいましょう。普通個体は、淡黄色の体色に4本の黒い縦縞模様が入っています。黒化個体は、真っ黒のほかにも、白い線やマダラ、ポツポツが混じったものもいます。

ヤマカガシはユウダ科の毒蛇です。長い間無毒と考えられていましたが、1972年に中学生が噛まれて死亡する事故が起きてから、毒蛇として認識されるようになりました。口腔の後方に毒牙を有する後牙類（後牙蛇）の毒蛇です。

元来、おとなしいヘビですが、毒性はハブの10倍、マムシの3倍と強く、万一噛まれると大変危険です。多様な体色変異があるので注意しましょう！

ヤマカガシは体色変異が強く、赤の斑紋がない個体（赤ぬけ）や白黒の個体、黒一色の個体など様々です。写真は黒化型のヤマカガシですが、ここまで黒いとシマヘビの黒化型と見間違えそうです。顔の形、首から下方にかけてみられる薄い白の模様などからヤマカガシであることがわかります。

マムシ（ニホンマムシ）はクサリヘビ科の毒蛇です。全長45-80cmほどの小型のヘビですが、毒性が強く、毎年3000人ほどが咬傷被害にあって、そのうち10名ほどが尊い命を落としています。マムシは水田や畑、野原、山林、水辺など、私たちが普段生活をしたり、アウトドア趣味を楽しむ環境の中に普通に生息しています。このことを忘れてはいけません。

ずんぐりした体に三角形の頭。マムシの特徴を備えていますが、体が真っ黒だと、とっさにはマムシだと判らないほどです。化型マムシには、マムシ特有の「銭型模様」さえも認められません。山野で「黒い蛇」に出会ったとき、その体がずんぐりしていたらマムシかもしれませんので充分に注意してください・・・ネット



黒ヘビ

下山時も何匹かヘビを見た。1回は家族??みたいな、集団ヘビを目撃。能郷白山は、「ヘビの山」だった。天城・丹沢なども見ないことはないが、一日にそう何匹も見ない。積雪が多い山と少ない山の違いがあるのだろうか。ネットを見たら、やはり書き込みがあった。マムシも多いようだ。要注意である。



前山下



ナナカマド

リンドウ

前山に上り本峰を目指す。道は最低コルまで標高差約100m下る。周りに早くも色付いた「ナナカマドの実」が赤かった。リンドウもなかなか良かった。ただ、開いている物は少ない。最低コルから最後の上り。山頂部は、茫洋とした様だった。

頭上に秋空が広がっていた。何故か「トンボ」は少ない。最後、右に少しで山頂、左は奥宮。山頂は奥宮より10数m高い。ただ、皆さんは奥宮で休憩。白山神社があったが、金属製で味気ない。本来の物は、台風で倒壊したという。



能郷白山遠望

奥宮に着いた。誰も居なかった。ビアをいただき空腹を満たす。温かいラーメンが美味しかった。程なく下から赤の上下の男が来た。聞けばゲートを6時頃出たという。なかなか速い。「下に二人、居ませんでしたか？」と聞けば、前山辺りで抜いたとのこと。京都から日帰りという。当地まで、2時間掛からないらしい。

先週は、加賀白山に上ったという。若いと思ったが、既に62歳だった。饒舌な方でよく喋った。ビアは飲まないが、ラーメンとか食べていた。その後、二人やってきた。年配者だった。聞けば、私より1歳多かった。温厚そうな方だった。以前、ハイキングにいたOさんに似ていた。温見峠からという。2時間位で物足りないといっていた。地元の方らしく、地形に詳しかった。

GYとHが到着。45分遅れ。それでも諦めず頑張った。二人は遅い昼食。GYは食べたが、Hはバテバテで食欲はなかった。11:05下山開始。

下りも二人は時間が掛かった。ま、二人で下れば問題はない。下りでもヘビを見た。突然で驚くのでKに先頭を譲る。その後も何匹か目撃。何でこんなにヘビが多いのか??登山口に着き、林道を下る。林道を最上部まで上って来た軽車両を発見。釣り師のようだ。

途中から自転車に乗る。やっぱり速い。ただ、ダート道は飛ばすと危険。GYとHは、1時間後到着。大分疲れた様子。日ごろの「鍛錬不足」

今日の宿、西国三十三観音・結願寺「華厳寺」山門脇の「立花屋」に到着。部屋・温泉は、イマイチだったが、食事はサイコーだった。近くの豊かな根尾川で取れる「鮎の刺身」を初めて食べた。なかなか逸品だった。

また、GYのみ「飛騨牛のステーキ」を注文。皆さん、少しずつお裾分けして貰った。（`艸`）

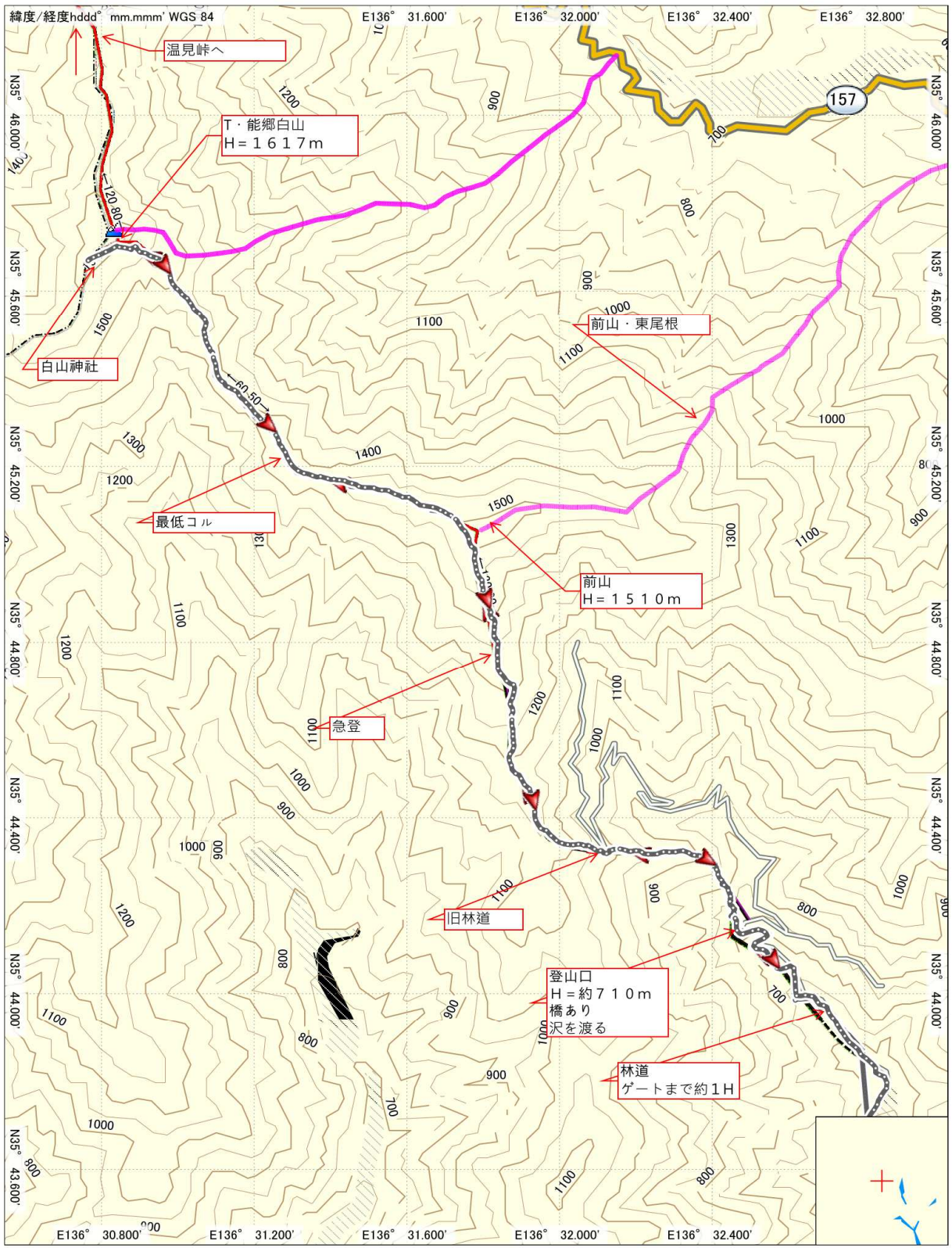


鮭の刺身

16日＝朝寝・朝酒・朝湯三昧。朝食後、華厳寺でお勤め。早朝、本堂のお経はサイコー。全員、巡礼経験者で頼もしい。本堂下の真っ暗な回廊を歩く作法があった。10分程度だが、漆黒の深い闇で、全く光明はない。「何故、こんな事をする」の問いに、坊さんが、貴方が先ほどいった通り、「日々の光の有難さを知るため」のもの（修行）と答えた。長泉には、早い時間に帰った。



華厳寺



Japan Topo 10M Plus V3
 CervusMaple Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1985-2014

2021/09/17 13:27:47

0 m 250 m 500 m 750 m 1000 m

GARMIN

MN TN
 -7.3°
 2010/01/01